

Nature

自然

私たちの生活にうるおいや安らぎを与えてくれる「自然」。

四季折々に美しい姿を見せてくれる「自然」。
私たちが自然から受ける恩恵は、計り知れないものがあります。

岩槻区は自然がいっぱいです。ここに紹介した自然はほんの一部に過ぎません。

「自然」を大切に、将来の人々へ残しましょう。



76 あかさかぬま 赤坂沼

区全体 MAP | A-2

大字平林寺1294・大字馬込585／国際興業バス 前原上から13分



赤坂沼は、区の北西部河合小学校の北側にあります。元荒川の氾濫によってできた自然池沼で周囲800mほどの小さな沼です。かつては、沼の南側には台地に沿って斜面林が連なり、赤坂沼の水源となっていました。しかし水田として利用されていた沼の周辺は、今ではほとんどヨシ原となってしまいました。

この赤坂沼周辺では、一年を通じていろいろな生き物が観察できます。春から秋にかけてはいろいろな植物を見ることができます。その植物を目指して集まる昆虫たちも多く、チョウやトンボの宝庫ともいえます。

赤坂沼の自然景観は、多くの生き物が生息するための環境維持に重要な役割を果たしています。将来世代に引き継ぐ価値のある重要な資源といえます。

赤坂沼周辺の生き物たち

野鳥 カイツブリ、バン、オオヨシキリ、サギ類など

植物 オニスゲ、ノカンゾウなど200種を超える

昆虫 ショウジョウトンボ、ミドリシジミなど

77 もとあらかわ 元荒川



徳川家康は、江戸に入府すると関東平野に災害をもたらしていた利根川や荒川の改修を命じました。

それまで江戸湾に注いでいた利根川の支流であった荒川は、まず備前堤の築造によって綾瀬川を荒川から分離して別の流れに変え、次に荒川を現在の熊谷市久下で締め切り、和田吉野川に付け替え入間川に合流させ、江戸湾へと流れを変えました。岩槻区を流れる元荒川は、もともとその荒川でしたが、付け替えによって本流から外れたことにより元荒川と呼ばれるようになりました。

その後、利根川も幾度もの改修を重ね、常陸川へ合流させることによって太平洋に注ぐようにしました。現在の古利根川は昔の利根川の旧経路です。

区内元荒川流域の自然は、古くからあった末田須賀堰によって培われてきた水環境の豊かさともいえます。キタミソウやチョウジソウなど多くの植物が生育し、その植物は昆虫たちの棲み家ともなっています。また渡り鳥や冬を過ごす野鳥たちにとっての移動経路（回廊=コリドー）として重要な役割を果たしています。

さらに満水時の元荒川の風景は、水との親近感を私たちに与えてくれ、一段と美しさを増幅させてくれます。

す え だ す か せ き れ き し し ょ く ぶ つ
78 末田須賀堰の歴史と植物

区全体 MAP | D-4

大字末田2054・大字新方須賀1160／朝日バス 巻の上から5分／永代橋 南側に駐車場



末田須賀堰は江戸時代初期の慶長年間（1596～1615）に、川の中央を締め切った中州の堰として築造され、新方須賀村と末田村の両岸に竹洗流し（堰の一種）を設け2派の流れにしていたと伝えられています。

その後、越流固定石堰、木造型枠など幾度となく造り替えられました。明治38年（1905）には、川中央部の中之島を境にして右岸側にレンガ造りの堰枠に改築されました。角落堰といわれ、分厚い木の板を何枚も積み重ねていく方式です。

大正15年（1926）には、左岸側に鉄筋コンクリート製の堰枠が築造されました。こちらは「ストニー式可動堰」といわれ、大きな1枚の鋼鉄製ゲート板を手動で上下させ堰き止める方式です。

現在の堰は、平成6年（1994）にこれまでの堰の上流側に改築されました。洪水吐ゲート1門・調整ゲート2門・土砂吐ゲート1門の4つの水門があり堰の幅は約75m。別に階段式の魚道が設けられていてアユをはじめ多くの魚が遡上してきています。上流部左岸側に須賀用水、右岸側には末田用水の取水口が設けられ、合わせて1,750haにも及ぶ水田に農業用水を供給しています。

末田須賀堰は、農業用水を確保するため4月初旬に堰が閉じられ増水し、9月中頃に堰が開けられ水が落とされます。また堰上流側右岸には停留部（よどみ）があります。このよどんだ場所の川底は、本流部のような土砂の流出がほとんどなく、夏の暑い時期には水中に没し、秋から春先にかけて露出する状態になります。そのためこの川底にはいろいろな植物の種が温存されています。その一種がキタミソウです。

キタミソウは、北海道北見地方で発見されたのでこの名がありますが、全国でも数カ所でしか見ることはできません。

キタミソウにとって川底が現れた時が春です。土が少し乾き始める頃発芽し、10月中旬頃から花が咲き始めます。葉は細長いへらのような形をしています。しかし直径が2mmほどの小さい白い花なので、目をこらさないと見つかりません。イチゴのように次々とランナーを伸ばして増殖し、最盛期にはまるでじゅうたんを敷いたように緑一面となります。

この他、川底にはわずか2～3カ月の間に花を咲かせるいろいろな植物が生育しています。オオオナモミ、カヤツリグサ、オオイヌタデなど秋に咲く花も見られ、中でもシロガヤツリやコイヌガラシは、キタミソウと並んで絶滅が危惧されている植物として「埼玉県レッドデータブック2011植物編」に掲載されています。埼玉県では、キタミソウを「希少野生植物」に指定し、保護が図られています。



キタミソウ



キタミソウの花



シロガヤツリ



コイヌガラシ



オオオナモミ



カヤツリグサ

COLUMN 定杭

江戸時代、水を巡った争いが絶えず、それを解決するために水の高さ(水位)を決めた石(定杭)が、永代橋南詰交差点に残っています。

79 緑のトラスト保全第7号地

区全体 MAP | A-2

大字馬込1315 / 国際興業バス 馬込から5分 / 駐車場なし



この雑木林は平成12年（2000）に県と旧岩槻市に地主の方から寄贈されたもので、「埼玉県緑のトラスト保全第7号地」になっています。雑木林の保全管理は、（公財）さいたま緑のトラスト協会に所属するボランティアが担当しています。毎月第1、第3土曜日の9時から11時までボランティアが保全活動を行っています。

門を入るとコナラ、クヌギ、アカシデ、エゴノキなどの落葉樹を中心とした里山が出迎えてくれます。整備された遊歩道をたどると奥の林へと続きます。

トラスト7号地は0.7haと県内に14か所（令和2年現在）あるトラスト地の中で一番小さい雑木林ですが、生きものが豊富です。春の野草（スミレ類、ジュウニヒトエ、ホウチャクソウ）、夏の昆虫（チョウ、タマムシ、カブトムシ、トンボ、バッタ）、秋の赤い実（十両、万両、ハダカホオズキ、ガマズミ、サルトリイバラ）、冬の野鳥（ウグイス、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、運が良ければルリビタキやオオタカ）と、四季折々いろいろな楽しみがあります。

80

いわつきしょうがっこう 岩槻小学校のイチヨウ

駅周辺MAP | C-2

本町5丁目6-45 / 岩槻駅東口から徒歩13分 / 駐車場なし



岩槻小学校のイチヨウ：市天記

B コース / 久保宿・渋江

平成19年(2007)3月30日、さいたま市から天然記念物の指定を受けました。推定樹齢150年、幹周り約5.3m、主幹は根元近くで4本に分かれ空に向かって大きく広がった樹形になっており、区内で一番大きなイチヨウです。

大正・昭和時代の記念写真には、木造校舎正面玄関横にこのイチヨウが写っています。昭和40年代(1965~1974)、岩槻小学校は児童数が2,000名を越えるマンモス校となり、それまで敷地の南側にあった木造校舎が取壊され、北側に鉄筋校舎が新設されました。これに伴いイチヨウは校庭のほぼ中央に位置するようになりました。

岩槻小学校創立が明治5年(1872)で、現在の場所に移転したのが同14年(1881)ですから、このイチヨウも同じ歳月を生き、更に今後も栄えある学校の歴史を見守っていくことでしょう。岩槻小学校を巣立った人々は、学校のシンボルとしてのこのイチヨウを仰ぎ見る時、わんぱく時代の楽しい思い出がよみがえってくることと思います。

COLUMN ムクノキ ニレ科

校庭の北西にトタン屋根に覆われた古木が保存されています。かつて岩槻城下を囲んでいた大構(岩槻駅東口前)に残っていたムクノキです。

81 久伊豆神社の社叢ふるさとの森

ひさ い ず じん じゃ しや そ う もり
駅周辺MAP | D-1

宮町2丁目6-55 / 朝日バス 出口から9分 / 駐車場あり



神社の境内全体(約2.5ha)が埼玉県の「社叢ふるさとの森」に指定されています。

神社の入り口から約200mの参道がシイノキ(スダジイ)、ケヤキ、ヒマラヤスギなどで覆われていて、うっそうとした緑のトンネルになっています。拝殿前の広場には昭和30年(1955)まで関東一の大杉といわれた、樹高50m、幹周り約10mのスギがありましたが、枯死したため伐採され、同37年(1962)、その跡にメタセコイヤが植えられました。現在、樹高29m、幹周り約4.4mの巨木に育っています。そのほか、幹周り約3.7mのクスノキ、約3.7mのシイノキ(スダジイ)、約3.2mのヒマラヤスギの巨木があります。

また、拝殿手前の階段右横には、腰のあたりで2本に分かれた「夫婦モッコク(幹周りそれぞれ約1.6m)」があります。本殿の後ろには武蔵野の面影を残すシラカシ、スギ、ムクノキなどの雑木林が広がっており、さらに神社の裏手には、赤間堀緑地があり、シラカシ、ケヤキ、クヌギなどの雑木林が連なっています。

COLUMN メタセコイヤ スギ科

メタセコイヤは化石としてしか発見されず、絶滅したと思われていましたが、昭和20年(1945)、中国四川省で生きている木が発見され、「生きている化石」といわれています。

82 いわつき じょう あと 岩槻城跡のケヤキ

駅周辺MAP | E-3

太田3丁目（岩槻城址公園多目的広場奥）／コミュニティバス 岩槻城址公園から5分（平日のみ運行）／岩槻城址公園に駐車場あり



岩槻城跡のケヤキ：市天記



岩槻城址公園内の多目的広場の南東部にあります。園内の一本の樹木にすぎませんが、近づいてみるとどっしりとした幹が目に入ります。横に張る枝一本一本が低い位置から出ているのでケヤキ独特のほうき状にはなっていませんが、周囲の木より一段と背を伸ばしている姿は、岩槻城の波乱に満ちた歴史を見つめてきた荘厳さを感じさせてくれます。

枝の数カ所にヤドリギが寄生しています。これはレンジャクという野鳥が、別の木にあったヤドリギの実を食べ、この木で糞をしたときに、糞に入っていた種が枝に付き成長して大きくなったものです。

区内にはまだまだ多くのケヤキがありますが、岩槻城跡のケヤキは幹周り約4.5mで、区内で一番の大きさです。

COLUMN ケヤキ ニレ科

ほうき状に枝を広げてそびえる姿は独特で、四季を通じて楽しませてくれます。関東平野に多く、「武蔵野」の原風景といえます。花は小さく目立ちませんが雄花、雌花があり、4月頃咲きます。実は約4mmで、熟すと黒っぽくなります。

83 光秀寺のカヤの木

区全体 MAP | C-5

大字尾ヶ崎888 / 国際興業バス 峰谷から4分 / 駐車場あり



光秀寺のカヤの木：市天記

この樹を見た瞬間、その太さに圧倒されます。幹周り約5.4mで区内最大の巨木です。いかにも枯れたような幹に見えますが、葉の茂り方をみるとその樹勢は衰えてはいないようです。

明治18年(1885)、この寺が焼けたとき類焼し、主幹の上部が焼失してしまったとのこと。ところが運良く生き残った幹から再び新芽が出て今日に至っています。根元には子どもが出入りできるほどの空洞ができています。

この光秀寺は、戦国時代には既に記録があることから、400年以上の歴史があります。このカヤの木も同じくらいの樹齢があってもよいほどの威厳さを感じさせてくれます。

COLUMN カヤ イチイ科

山野に生える常緑高木で、若木の頃樹皮は青灰色でなめらかですが、老木になるとその樹皮は薄く縦にはがれていきます。

雌雄異株で、花は5月頃咲き、実は長さが2~3cmで食用として油もとれます。材は碁盤や将棋盤などになります。



84 大光寺のボダイジュ

だいこうじ

区全体 MAP | C-3

大字長宮1197 / コミュニティバス 南平野中央通りから16分(平日のみ運行) / 駐車場あり

地上1m付近で2幹に分かれ、幹周り大幹約3.3m、小幹約1.4m。中国原産の落葉高木で、寺院の境内などに植えられています。花は6月頃咲き、実をつけ、以前はこの実を使って数珠を作ったといわれています。大光寺にはこの他、幹周り約3.6mのムクノキが2本、約3.2mのイチョウ、約3.1mのシイノキ(スダジイ)などがあります。



85 大龍寺のスダジイ

だいらりゅうじ

駅周辺 MAP | C-2

本町5丁目3-18 / 岩槻駅東口から徒歩12分 / 駐車場あり

幹周り約5.2m、樹齢約400年。ブナ科に属し、一般にシイノキといわれている暖かい地方に自生する常緑高木です。区内で最も大きなスダジイで、幹の元に立つと荘厳さを感じます。6月頃雄花、雌花別々に花を咲かせます。実は先が尖^{とが}っていて生のままでも食べられます。

自然



86 柏崎小学校のクスノキ

かしわぎきしょうがっこう

区全体 MAP | B-4

柏崎762 / 国際興業バス 浮谷から16分 / 駐車場あり

柏崎小学校は、明治6年(1873)に開校し、同39年(1906)に当地に移転しています。クスノキは校庭南側のフェンスの外にあり、腰の高さで2本に別れ、それぞれの幹周りは約3.7m、約3.3mもある巨木です。その太さから見て、柏崎小学校が当地に移転する以前からあったものと考えられます。(推定樹齢250~300年)